

## ミュージアム・パスポート会員募集中

ふくやま美術館友の会では、美術館をもっと楽しみたい方のために、ミュージアム・パスポート会員を募集しています。当美術館及びふくやま書道美術館所蔵品展がフリーパスになるほか、催し物案内の送付、ミュージアムショップやカフェでの割引など、さらに美術館を身近に楽しんでいただける特典がいっぱいです。

**年会費** 一般会員 3,000円 学生会員 1,500円  
特別会員A 20,000円 特別会員B 10,000円

**特典** 所蔵品展・特別展無料観覧（※会員の種類で無料回数異なります。[例]一般会員は特別展が年4回無料）、美術館に関する情報提供、当館ミュージアムショップやカフェの割引、提携美術館・施設での入館料の割引など。

**お問い合わせ** ふくやま美術館友の会事務局  
TEL 084-932-2345

## インフォメーション

◎ふくやま美術館（JR福山駅福山城口（北口）から西へ400m）  
〒720-0067 広島県福山市西町二丁目4番3号  
TEL 084-932-2345 FAX 084-932-2347  
<https://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/site/fukuyama-museum/>  
Twitter・Instagram: @fukuyama\_bi



**駐車場** 68台（特別展、所蔵品展をご観覧のお客様は1時間無料）  
**休館日** 月曜日（祝休日の場合は開館、その翌日は休館）、年末年始  
**開館時間** 9:30～17:00 ※特別展開催中の場合、夜間開館あり  
**観覧料** 所蔵品展：一般310円（250円）※（ ）内は有料20名以上の団体料金  
※特別展の観覧料は別に定めます。  
※特別展・所蔵品展ともに高校生以下無料。

◎ふくやま書道美術館（JR福山駅福山城口（北口）から西へ400m）  
〒720-0067 広島県福山市西町二丁目4番3号  
TEL 084-925-9222 FAX 084-925-9223  
<https://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/site/fukuyama-syodo/>



**駐車場** 68台（所蔵品展をご観覧のお客様は1時間無料）  
**休館日** 月曜日（祝休日の場合は開館、その翌日は休館）、年末年始  
**開館時間** 9:30～17:00  
**観覧料** 所蔵品展：一般150円（120円）※（ ）内は有料20名以上の団体料金  
※高校生以下無料



## 所蔵品展

### 春季所蔵品展

### レアリズムー「労働」のある風景

特集展示：受贈記念 南薫造新収蔵品展

4月3日（水）ー6月23日（日）

「労働」が表現された多様な作品を展覧することにより、近代における働く人々に向けられたまなざしを探ります。また第2室の特集展示では、日本近代美術を代表する広島出身の洋画家、南薫造の新収蔵品全39点を一挙初公開します。



レオン・オーギヤスタン・レルミット  
《昼食の支度》1900年

### 夏季所蔵品展

### 山水と風景

### ー遠近表現の東西

6月27日（木）ー9月29日（日）

海や山河など自然を描いた「風景画」は、主として近代以降に西洋から日本にもたらされました。一方で中国から伝わる「山水図」の多くは、俗世を離れた理想郷を描いています。各作品の画面上に広がる世界を味わい、多様な風景表現に親しんでいただきたいと思います。



大村廣陽《瀬浦》1936年

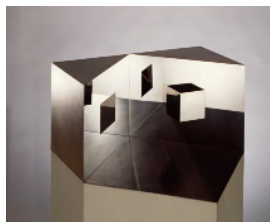
### 秋季所蔵品展

### 形のユーモア

### ーおもしろ彫刻大集合！

10月3日（木）ー12月15日（日）

立方体と三角錐を組み合わせた、とんがりコーンやハートマークに見える形があったり、彫刻作品にはユニークな形がたくさんあります。隠された意味があるのか、ないのか。形の持つ可能性を探ってみましょう。



堀内正和《27番目の立方体—C》1989年

### 冬季所蔵品展

### 穴をのぞく／

### むすんでひらいて、またむすぶ

2025年

1月2日（木）ー3月30日（日）

穴から向こうを「覗」いたり、穴が「除」かれた様子を想像したり、様々な穴に注目した〈穴をのぞく〉と、「結ぶ」という動作や言葉に焦点を当てた〈むすんでひらいて、またむすぶ〉。作品の新たな見かたを提案する2つの特集展示です。



森谷南人子《針と糸》

# 2024 2025 2025.3

## ふくやま美術館 FUKUYAMA MUSEUM OF ART 展覧会カレンダー



豊福知徳《風塔'83》

EXHIBITION SCHEDULE 2024.4 - 2025.3

# イタリアと日本の前衛

—20世紀の日伊交流

## 4月6日(土)ー6月2日(日)

休 館 日=月曜日 ※4月29日(月・祝)、5月6日(月・休)は閉館、5月7日(火)は休館  
開館時間=9:30~17:00 ※5月2日(木)、3日(金・祝)、4日(土・祝)、5日(日・祝)は19:00まで開館  
観 覧 料=一般1,500円(1,200円)、高校生以下無料 ※( )内は前売りまたは有料20名以上の団体料金

イタリアと日本の美術交流は、明治時代に始まり、150年以上続いています。本展では、そうした中で、作家同士が個人的に親交を深めていく20世紀に光を当て、現在の日本に残されているイタリア美術作品のルーツをたどります。イタリアの未来派と東郷青児、神原泰とのやりとりが始まり、戦後イタリアを代表する作家ルネ・フォンタナと、戦後日本を代表する詩人で美術評論家の瀧口修造の親交、そしてそこからさらにほかの作家へと展開していく人間関係を紐解きながら、作品と資料約100点を通して、当時のイタリアと日本の姿を見つめなおします。



ジャコモ・バッラ《輪を持つ女子》1915年 ぶくやま美術館蔵

# 神坂雪佳

—つながる琳派スピリット

## 2025年1月25日(土)ー3月23日(日)

休 館 日=月曜日  
開館時間=9:30~17:00 ※2月24日(月・休)は閉館、2月25日(火)は休館  
観 覧 料=一般1,300円(1,040円)、高校生以下無料 ※( )内は前売りまたは有料20名以上の団体料金

「琳派」は、江戸時代初期の本阿弥光悦、俵屋宗達に始まり、江戸中期の尾形光琳とその弟乾山、さらに江戸後期の酒井抱一、鈴木其一らにより受け継がれてきました。明治から昭和にかけて京都で活躍し、「光琳の再来」とも称された神坂雪佳(1866-1942)は、琳派に傾倒し、身の回りを美しく飾る意匠(デザイン)を生み出した図案家・画家です。本展は、装飾性豊かな琳派の美の系譜をたどりながら、約80件の作品によりマルチアーティスト・雪佳の多彩な活動を紹介します。



『百々草』より「狗児」明治42~43年刊 細見美術館蔵



《金魚玉団》(部分)明治末期 細見美術館蔵

# 魔法の美術館リターンズ!

—見てさわって遊ぶ超体感型ミュージアム

## 7月13日(土)ー9月29日(日)

休 館 日=月曜日 ※7月15日(月・祝)、8月12日(月・休)、9月16日(月・祝)、23日(月・休)は閉館、7月16日(火)、9月17日(火)、24日(火)は休館  
開館時間=9:30~17:00 ※8月10日(土)、11日(日)、12日(月)、13日(火)は19:00まで開館  
観 覧 料=一般1,500円(1,200円)、高校生以下無料 ※( )内は前売りまたは有料20名以上の団体料金

不思議な光とアートの世界、福山へ再上陸! あなたが足を一步踏み入れると、まるで自分が魔法使いになったかのようです。自身の動きに合わせて表情を変える作品をはじめ、ボールを投げると花火のような音や光が次々に広がったり、指先を自由に動かすと、たくさんの花々が描かれ、一面に花畑が表れたり、見て、触って、直感的に楽しめる内容です。魔法のような体験が、みなさんをきっとワクワクさせることでしょう。



Ponboks(本多大和)《ユビサキに咲く》2021年 ©Ponboks (yamato HONDA)

## 第54回世界児童画展

### 7月26日(金)ー8月4日(日)

世界の児童画と、国内・県内の児童・生徒の優秀作品を展示します。



## 第16回ぶくやま子ども「生きる」美術展

### 2025年1月2日(木)

#### —1月13日(月・祝)

児童・生徒のそれぞれの「生きる」をテーマとして個性豊かに描いたみずみずしい作品の中から、受賞作品を展示します。



## たのしい鑑賞プログラム (小中学生対象プログラム)

観察力・コミュニケーション力を高める「対話型」や知識・教養を深める「ガイド形式」の鑑賞プログラム等、ご希望に応じてご提案します。



お問い合わせ:ぶくやま美術館 TEL.084-932-2345 (火~日曜日の8:30~17:00)

# ぶくやまの仏さま

—国宝明王院本堂本尊33年ぶり特別公開記念

## 10月12日(土)ー12月15日(日)

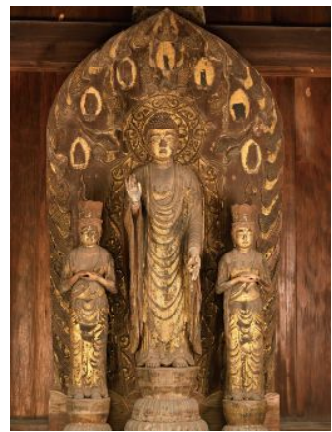
前期:—11月10日(日) 後期:11月12日(火)ー

休 館 日=月曜日 ※10月14日(月・祝)、11月4日(月・休)は閉館、10月15日(火)、11月5日(火)は休館  
開館時間=9:30~17:00  
観 覧 料=一般1,300円(1,040円)、高校生以下無料 ※( )内は前売りまたは有料20名以上の団体料金

今年は、国宝明王院本堂の本尊「十一面観音菩薩立像」(国指定重要文化財 ※後期展示)が菩薩の縁数に基づき、33年に1度の御開帳を迎える特別な年です。本展は、この特別な機会を記念して、鞆町安国寺「木造阿弥陀如来及び両脇侍立像」(国指定重要文化財)をはじめ、福山市内に安置されている仏像、仏画、法具などの工芸品、資料など約80件により、福山で華麗に花開いた仏教美術の精華を多くの方々にご覧いただくものです。



「木造弥勒菩薩坐像」県指定重要文化財 南北朝時代 草戸町 明王院蔵(後期展示) ※新たに発見された像内納入品も合わせて公開します。



「木造阿弥陀如来及び両脇侍立像」国指定重要文化財 鎌倉時代 鞆町 安国寺蔵

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2025年1月	2月	3月
4/6~		6/2	7/13~		9/29	10/12~		12/15	1/2~1/13	1/25~	3/23
特別展「イタリアと日本の前衛—20世紀の日伊交流」			特別展「魔法の美術館リターンズ!—見てさわって遊ぶ超体感型ミュージアム」			特別展「ぶくやまの仏さま—国宝明王院本堂本尊33年ぶり特別公開記念」			第16回ぶくやま子ども「生きる」美術展	特別展「神坂雪佳—つながる琳派スピリット」	
4/3~		6/23	6/27~		9/29	10/3~		12/15	1/2~		3/30
春季所蔵品展「アリスーム「労働」のある風景」特集展示:受贈記念 南薫造新収蔵品展			夏季所蔵品展「山水と風景—遠近表現の東西」			秋季所蔵品展「形のユーモア—おもしろ彫刻大集合!」				冬季所蔵品展「穴をのぞく/むすんでひらいて、またむすぶ」	